

千の葉の芸術祭
CHIBA CITY FESTIVAL OF ARTS



実施計画書（最終版）

令和3年6月24日

千葉市・千の葉の芸術祭 実行委員会

目次

1. 開催概要	3
2. 各ディレクターの紹介	4
3. 写真芸術展	5
4. 体験・創造ワークショップ	22
5. 伝統文化と新しい文化の発信	26
6. 市民参加について	33
7. 他の企画や関連イベントについて	33
8. 広報広告について（株式会社 ADK クリエイティブ・ワン受託業務）	35
9. 千葉都市モノレール、京成バス 千の葉の芸術祭フルラッピング広告	37
10. 各種認証マークについて	37
11. 輸送交通について	37

1. 開催概要

- (1) 芸術祭タイトル：千の葉の芸術祭
- (2) 芸術祭キーワード：変化 / CHANGE
- (3) 芸術祭コンセプト：アートでつながる アートでつなげる 自由なアートが人と社会をかえていく
- (4) 開催目的（レガシー）
- ・市制 100 周年を迎えたことを契機に、本市の「自然や歴史に根差した固有の文化力」と「技術の進展によって生まれた新しい文化力」を市民が再認識できる。
 - ・「文化芸術の間口を広く、敷居を無くし、日常的な活動へと広げる取組」の機会を創出する。
- (5) 主催：千の葉の芸術祭 実行委員会
 （構成団体：千葉市、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、千葉市文化連盟、公益社団法人千葉市観光協会、千葉市メディア芸術振興事業実行委員会）

- (6) 開催期間：令和 3 年 7 月 24 日（土）～令和 3 年 9 月 12 日（日）までを「千の葉の芸術祭本イベント期間」とする。

写真芸術展	令和 3 年 8 月 21 日（土）～9 月 12 日（日）
体験・創造ワークショップ	令和 3 年 4 月 16 日（金）～4 月 30 日（金）：募集期間 令和 3 年 6 月～7 月：講座開催（4 講座×5 回） 令和 3 年 8 月～9 月：成果発表
伝統文化と新しい文化の発信	令和 3 年 7 月 24 日（土）～8 月 8 日（日） ※「伝統文化の発信」は 8 月 6 日（金）～8 月 7 日（土）

- (7) 開催会場

写真芸術展	千葉市美術館、千葉公園（蓮華亭・好日亭）、旧神谷伝兵衛稲毛別荘など
体験・創造ワークショップ	千葉市生涯学習センター など
伝統文化と新しい文化の発信	県立幕張海浜公園（見浜園）

- (8) 企画概要

写真芸術展	第一線で活躍するアーティスト（12 名）が、市の資源（地域資源や人的資源など）を被写体に、メッセージ性の高い写真作品を制作し、展示することにより、多様な資源を持つ市の魅力を広く発信する。
体験・創造ワークショップ	本市で実施してきた体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を活用し、これまで主な対象者としていた小学生のみならず、大人も対象に開催する。（4 講座×5 回）
伝統文化と新しい文化の発信	見浜園で、市民や本市への来訪者を対象に、8 月 6 日～7 日の日中は伝統文化（市文化団体：2 団体）の体験鑑賞会を、また、期間中の夜は光を使ったインスタレーション等のイベントを開催する。
広報	WEB での広報、チラシやガイドマップ等の配布、SNS での発信を行うとともに、千葉都市モノレールの車両と海浜幕張駅周辺を運行する京成連節バスの車両にラッピングを行うなどの広報活動を行う。

2. 各ディレクターの紹介

総合ディレクター ほんの しんご 神野 真吾



千葉大学 教育学部 芸術学研究室 准教授

(1) 千葉市とのかかわり

- ・千葉市文化芸術振興会議 委員長
- ・千葉市ナイトタイムエコノミー推進審議会 委員長
- ・千葉市美術館アウトリーチプログラム「千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN)」代表

(2) その他のアート関係の役職

- ・国立美術館の教育普及事業等に関する委員会 委員
- ・東京大学「社会を指向するアートマネジメント人材育成事業」AMSEA 副代表
- ・角川武蔵野ミュージアム ボードメンバー (アート担当)

ディレクター あおた ゆみ 粟生田 弓



日本写真史研究家

1980年東京都生まれ。

2009年4月株式会社リヴォラをデザイナーと共に設立。ファッションブランド RIVORA を運営する。また、東京大学情報学環特任助教(文化庁 大学における文化芸術推進事業 付)に携わる。

著書に『写真をアートにした男 石原悦郎とツァイト・フォト・サロン』(小学館)、編著に『1985/写真がアートになったとき』(青弓社)。写真やアートに関する執筆を行う。

アートディレクター おおうち おさむ



グラフィックデザイナー

1971年生まれ、千葉市稲毛区で育つ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒。

(故)田中一光に師事し、2003年7月7日に有限会社ナノナノグラフィックスを設立。

平面と空間の相乗効果を創作の軸に置き、グラフィックからスペースデザインまで幅広い活動を展開。国内外問わず著名写真家やアーティストのデザインを手がけている。

3. 写真芸術展

千葉市の魅力を市民の方に再認識していただけるような、千葉市の魅力を撮り下ろした作品 など、「今」市民の方に見ていただきたい作品を展示することで、新たな気付きを得ていただく。さらに来葉された方々にも作品を通じてその魅力を知っていただく。

また、「千葉市美術館」以外に、「旧神谷伝兵衛稲毛別荘」や「千葉市ゆかりの家・いなげ」なども展示会場として活用し、作品とそれぞれの場所の魅力を際立たせるデザイン性の高い会場設営を施すことで、各施設の新たな一面も体感してもらおう。

(1) 名称：CHIBA FOTO

(2) 開催期間：令和3年8月21日（土）～9月12日（日）

(3) 展示会場紹介

千葉市美術館	円柱が並ぶネオ・ルネサンス様式の空間である1階さや堂ホールと、9階の市民ギャラリー、中央区内が一望できる11階講堂を展示会場として使用。（千葉市美術館は令和2年7月にリニューアルオープン）
千葉公園	都心部にありながら緑豊かで市民の憩いの場である千葉公園内の蓮華亭（オオガハスの展示資料館）と好日亭（茶室）を展示会場として使用。
千葉市中央コミュニティセンター	サークル活動やレクリエーション活動など地域市民の憩いの場となっている施設。千葉都市モノレール「市役所前駅」から直結の2階スペース及び大木ナカ氏から市に遺贈された邸宅などを利用した松波分室を展示会場として使用。
そごう千葉店	年間を通じて気軽にアートを体感できる展示を開催。開放的な吹き抜けから自然光が入り込む9階 滝の広場を展示会場として使用。
旧神谷伝兵衛稲毛別荘	浅草の神谷バーや茨城の牛久シャトーの創設者「日本のワイン王・神谷伝兵衛」が大正7年に別荘として建て、稲毛が海辺の保養地だった頃の記憶を物語る建物として価値がある洋館のB1～2階を展示会場として使用。
千葉市ゆかりの家・いなげ	保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築である「ゆかりの家」を展示会場として使用。昭和12年には、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑と妻・浩が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送った。
千葉市民ギャラリー・いなげ	地域のアートの拠点であり、地域と密着したイベントも多数開催する市民ギャラリーいなげの2階を展示会場として使用。

(4) 展示場所

No.	作家名	会場	エリア
①	きたい かずお 北井 一夫	千葉市美術館 (11階 講堂)	中央区エリア
②	きたとう しんたろう 佐藤 信太郎	千葉市美術館 (1階 さや堂ホール)	
③	くら まさみ 蔵 真墨	千葉市美術館 (1階 さや堂ホール)	
④	ほんじょう なおき 本城 直季	千葉市美術館 (9階 市民ギャラリー)	
⑤	あらい たかし 新井 卓	千葉公園 (好日亭)	
⑥	よしだ しほ穂 吉田 志穂	千葉公園 (蓮華亭)	
⑦	しみず ゆき 清水 裕貴	千葉市中央コミュニティセンター (2階 店舗跡地) そごう千葉店 (海側南エレベーター)	
⑧	かわうち りんこ 川内 倫子	千葉市中央コミュニティセンター松波分室	
⑨	うきみ まさひろ 宇佐美 雅浩	そごう千葉店 (9階 滝の広場)	
⑩	よこゆ くみ 横湯 久美	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 (2階)	稲毛区エリア
⑪	かながわ しんご 金川 晋吾	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 (B1・1階)	
⑫	ならはし あきこ 檜橋 朝子	千葉市ゆかりの家・いなげ	
⑬	アーカイブ展	千葉市民ギャラリーいなげ (2階)	

(5) 各展示について

①	
作家名	北井 一夫 (きたい かずお)
作家プロフィール	1944年中国鞍山市生まれ、日本大学芸術学部写真学科中退。日本写真協会新人賞受賞。第一回木村伊兵衛写真賞受賞。日本写真協会作家賞受賞。写真展多数。主な写真集に「三里塚」「村へ」「新世界物語」「フナバシストーリー」「道」「流れ雲旅」など。
展覧会タイトル	写真集の裏側
作品のテーマ	千葉県内に居住する北井一夫には、千葉を舞台にした作品が数多くある。そこからは半世紀以上前の、海の香り漂う千葉の風景や当時の人々の暮らしが感じ取れる。本展では、現在の千葉市内をデジタルカメラで撮影した新作「千葉 街路樹」に至る経緯を、これまでの千葉での写真等と共にみせていく。北井一夫の半世紀以上に及ぶ仕事の道のりで生み出された、貴重なヴィンテージ・プリントのみならず、カメラ雑誌をはじめ、ポスター、カレンダーといった印刷物。そして50冊近い写真集とその版下や刷り出し原稿まで、様々なコンディションの写真が展示される。複製、印刷といった文化の裏舞台が見られることも本展の見どころである。
点数 (予定)	約100点程度 (作品と資料により構成)
会場・開館時間	千葉市美術館 (11階 講堂) 10時00分～18時00分 ※休館日：9月6日 (月)

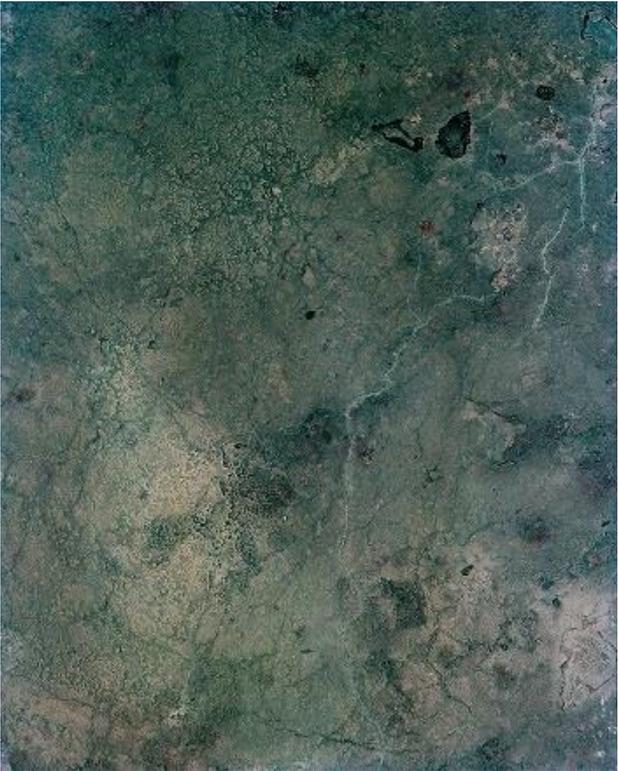
展示予定作品例



街路樹，千葉市，2020
©Kazuo Kitai



街路樹，千葉市，2020
©Kazuo Kitai

②	
作家名	佐藤 信太郎 (さとう しんたろう)
作家プロフィール	1969年、東京に生まれる。1992年、東京総合写真専門学校卒業。1995年に早稲田大学第一文学部を卒業後、共同通信社に入社。2002年よりフリーの写真家として活動する。2012年に林忠彦賞、2009年に千葉県芸術文化新人賞、日本写真協会賞新人賞を受賞。
展覧会タイトル	Geography / Boundaries
作品のテーマ	千葉市に暮らす佐藤信太郎は、2つのシリーズを展示する。Geographyは、1992年の冬に東京湾岸の埋立地の地表を大判カメラで撮影した全6作品からなるシリーズ。Boundariesは「境界」をテーマにしたシリーズで、今回出品される作品は、稲毛をはじめ千葉市内で撮影されている。かつて海に面していた崖から生まれた複数の空間と、移り変わる複数の季節の時間が混ぜ合わさることによって作り出される、不思議な奥行きを持つ作品。このふたつがさや堂の歴史ある空間で展示され、独特の世界観をつくり出す。
点数 (予定)	12点
会場・開館時間	千葉県美術館 (1階 さや堂ホール) 10時00分～18時00分 ※休館日：9月6日 (月)
展示予定作品例	
	
<p>Boundaries ©Shintaro Sato</p>	<p>Geography ©Shintaro Sato</p>

③	
作家名	蔵 真墨 (くら ますみ)
作家プロフィール	富山県生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業。東京ビジュアルアーツ写真学科に学ぶ。2010年、第10回さがみはら写真新人奨励賞。 長年ストリートスナップで人物を撮影している。作品は東京都写真美術館、サンフランシスコ近代美術館などに収蔵されている。
展覧会タイトル	千の葉のひとびと
作品のテーマ	国内外のさまざまな街に暮らす人々を、訪問者の目線で表現してきた蔵真墨による、街中でのポートレートを中心とした展覧会。蔵にとって千葉という場所は未知の場所であるが、創作を通じて人々と交流することで「独特の地方性があり人々のおおらかで安定した雰囲気」を感じ取った。市内で撮り下ろされた作品からは、千葉市に暮らす多様な文化的背景を持つ人々の存在が浮かび上がり、人を通じて街のアイデンティティが見えてくる。また、本作は2020年から21年にかけての作品で、コロナ禍の街の様子を必然的に写し出している。今回は作家の初期作品の基本的なフォーマットであるモノクロ写真で表現される。さや堂という歴史的建造物の中で、今を生きる人々から時代を表現する。
点数 (予定)	約 30 点
会場・開館時間	千葉市美術館 (1階 さや堂ホール) 10時00分～18時00分 ※休館日：9月6日 (月)

展示予定作品例



ハラルショップにいた青年 西千葉
2020©Masumi Kura



ネパール出身の専門学校生 千葉公園
2020©Masumi Kura

④	
作家名	本城 直季 (ほんじょう なおき)
作家プロフィール	1978年、東京都出身。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業、同大学院芸術研究科メディアアート修了。実在の風景を独特のジオラマ写真のように撮影した写真集『small planet』で2006年度木村伊兵衛賞を受賞し、一躍注目を集める。
展覧会タイトル	地域と学校 small planet Chiba
作品のテーマ	空から撮影される千葉市の街、工業地帯、野球場 の作品や、学校を被写体としたシリーズ Small garden では市内の小学校で行われた運動会風景などを撮り下ろしている。 本展において「学校」は象徴的な場所だ。高等特別支援学校に通う生徒たちとの交流から生まれた、本城直季の作品でこれまであまり見られなかったポートレートや、小学校でのコマ撮りを繋げた映像作品も上映される。
点数 (予定)	約 50 点
会場・開館時間	千葉県美術館 (9階 市民ギャラリー) 10時00分～18時00分 ※休館日：9月6日(月)

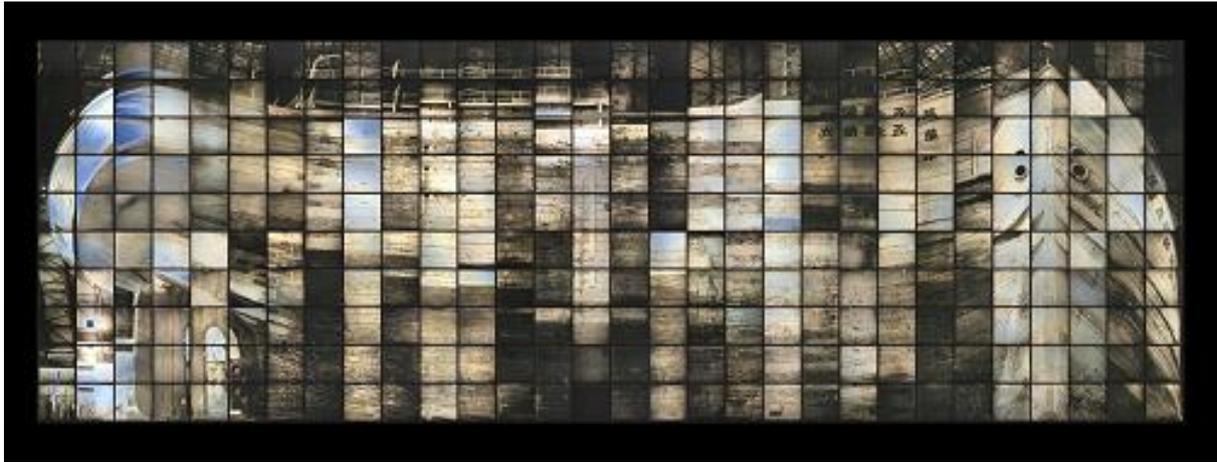
展示予定作品例

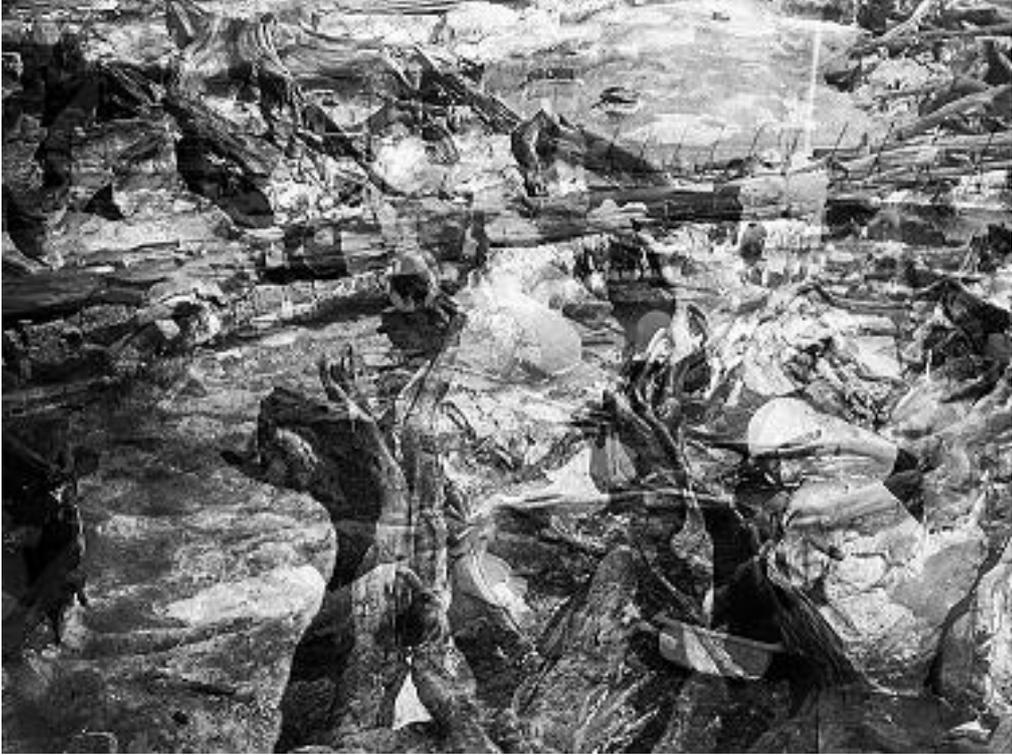


© Naoki Honjo
協力: 千葉市立平山小学校



© Naoki Honjo
協力: 千葉市立高等特別支援学校

⑤	
作家名	新井 卓 (あらい たかし)
作家プロフィール	1978年神奈川県川崎市生まれ。近年は映画制作、執筆、環境史学共同研究のほか多岐にわたる活動を展開。2016年に第41回木村伊兵衛写真賞、2018年に映像詩『オンラ鏡』で第72回サレルノ国際映画祭短編映画部門最高賞ほか受賞多数。
展覧会タイトル(予定)	渚にて
作品のテーマ	ダゲレオタイプという写真黎明期に誕生した技法で創作する新井卓による展覧会。千葉の海岸線を北上しながら、太平洋沿岸の景色を撮影する。ダゲレオタイプは写真が複製技術になる前の技法で、像は鏡に定着される。そのため鑑賞者が作品と向かい合うと、自ずと自身がそこに写され、被写体の中に入り込むという体験を味わうことができる。新型コロナの影響で延期になったことで、開催年が東日本大震災から10年目となるが、被災した千葉から東日本沿岸の今を海を通じて捉え、時間や空間のつながりを描き出す。
点数 (予定)	複数枚からなる1点、他2点
会場・開館時間	千葉公園 (好日亭) 9時00分～17時00分
展示予定作品例	
	
<p>©Takashi Arai 第五福竜丸のための多焦点モニュメント 「EXPOSED IN A HUNDRED SUNS / 百の太陽に灼かれて」シリーズより</p>	

⑥	
作家名	吉田 志穂 (よしだ しほ)
作家プロフィール	1992年生まれ。2014年「第11回写真1_WALL」グランプリ受賞。主な個展に「第11回 shiseido art egg」展 (17年、SHISEIDO GALLERY) 「Quarry / ある石の話」 (18年、Yumiko Chiba Associates) など
展覧会タイトル(予定)	空白と考古学
作品のテーマ	歴史や時間的な積層に着目し、フィルムカメラで撮影した写真や、インターネット上の画像までもも作品に取り入れる吉田志穂によるインスタレーション。加曽利貝塚の存在をきっかけに縄文文化へと深く潜り込み、歴史からのインスピレーションを表現する。かつて同じ大地の上に暮らした縄文の人々と、現代を生きるわたしたちとのつながりが感じられる。
点数 (予定)	約 20 点
会場・開館時間	千葉公園 (蓮華亭) 9時00分～17時00分
展示予定作品例	
	
©Shiho Yoshida	

⑦	
作家名	清水 裕貴 (しみず ゆき)
作家プロフィール	2007年武蔵野美術大学映像学科卒業。2011年1Wall グランプリ受賞。2016年三木淳賞受賞。土地の歴史や伝承のリサーチをベースにして、写真と言葉を組み合わせて風景を表現している。主な個展に「empty garden」(PGI 2019)、「birthday beach」(nap gallery 2019) 近年は小説も発表。2018年新潮社 R18 文学賞大賞受賞。新潮社から「ここは夜のほとり」出版。
展覧会タイトル(予定)	コールドスリープ
作品のテーマ	旧千葉市の中心地区に栄えた「蓮池」という花街をモチーフに、過去と現在を行き来する物語を、写真と文章のインスタレーションで表現する。展示会場となる元喫茶店の空間では、時計やグラス、花などと合わせて作品が展示される。小説家としても活躍する清水裕貴は、本展に書き下ろしの小説も創作する。 物語は千葉市内に広がり、清水の作品も展示会場に止まらず、千葉そごうのエレベーターなどでも見ることができる。「コールド スリープ」はエレベーターの形状から連想された。
点数 (予定)	写真作品 30 点、その他テキスト、プロジェクション、グラス、布
会場・開館時間	千葉市中央コミュニティセンター (2階 店舗跡地) 9時00分～17時00分 そごう千葉店 (海側南エレベーター) そごう千葉店の営業時間に準じる。

展示予定作品例



COLD SLEEP
©Yuki Shimizu



COLD SLEEP
©Yuki Shimizu

⑧	
作家名	川内 倫子 (かわうち りんこ)
作家プロフィール	1997年に「うたたね」で第9回ひとつぼ展グランプリ(写真部門)受賞。繊細な色彩感覚と独自の眼差しで日常を表現し、一躍注目を集める。2002年、木村伊兵衛写真賞受賞。主な個展に、2005年「AILA + Cui Cui + the eyes, the ears,」(カルティエ財団美術館, パリ)、2012年「照度 あめつち 影を見る」(東京都写真美術館、東京)、2016年「川が私を受け入れてくれた」(熊本現代美術館, 熊本)他、国際的に展覧会を多数開催。写真集に『Illuminance』『あめつち』『Halo』『as it is』他。2017年、千葉県に移住。
展覧会タイトル(予定)	as it is
作品のテーマ	2016年に出産、子育てををする中で巡り合った千葉の土地での新しい生活の断片を、子どもの成長と合わせて描き出す。四季の移り変わりを通じて出会う自然と光の美しさ、暮らしの中で見つける小さな生き物たち、初めて体験する死という出来事—それらのささやかな物事に宿る生命の美しさと、その気づきから積み重なっていく日々。これらの写真と映像を人々に愛される地域施設である旧大木ナカ邸の、小部屋で仕切られた空間に散りばめる。また、それらに呼応するかのよう、新作で自宅の近所に飛来したツバメの子育てを捉えた作品群が展示される。
点数(予定)	約50点
会場・開館時間	千葉市中央コミュニティセンター松波分室(旧大木ナカ邸) 9時00分~17時00分 ※休館日8月30日(月)

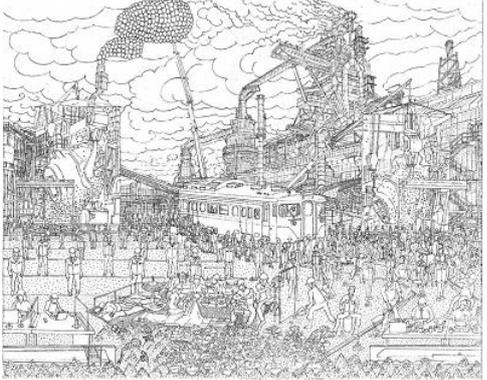
展示予定作品例・展覧会風景参考写真



©Rinko Kawauchi



川内倫子 過去の展覧会風景(参考)

⑨	
作家名	宇佐美 雅浩 (うさみ まさひろ)
作家プロフィール	1972年千葉県千葉市生まれ。97年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。仏教絵画の「曼荼羅」の如く、中心人物と、その人物の世界を表現する物や人々を周囲に配置し、1枚の写真に収める「Manda-la」プロジェクトを20年以上続けている。様々な地域を舞台に、リサーチや対話を重ねて制作されるその写真は、地域の歴史や社会をも映し出す。
展覧会タイトル	宇佐美正夫 千葉 2021
作品のテーマ	<p>ひとりの人物を通して、その地が持つ記憶を一枚の写真絵巻に出現させる作家の代表作「Manda-la」。CGなどの合成技術を用いずに、複数の時間や出来事を一枚の中で表現するのが本シリーズの醍醐味である。</p> <p>今回は作家が生まれ、30年間暮らした千葉市が舞台となる。</p> <p>JFE スチール株式会社（旧川崎製鉄株式会社）の元社員である実父正夫を中心に、高度経済成長期に働いたOB社員の方々と、現在JFEに勤める弟と現役社員の方々に参加していただき、作家の家族を中心に、千葉市の発展と現在の姿を描く予定だった。しかし、約二年に渡る制作過程の中、主役である父が亡くなってしまふ。</p> <p>アートの文脈とは別の日常を生きる家族からの反発、JFEの製鉄所内における厳格な安全基準、新型コロナウイルス対策のため生じたさまざまな困難、そうした複雑な条件の中で、作家は、自らの意図や思い描いたイメージを実現しようともがき、本作は生み出された。</p>
点数（予定）	大型作品1点（その他にムービーと作画を展示）
会場・開館時間	そごう千葉店（9階 滝の広場） 10時00分～19時00分
展示予定作品例	
	
<p>《早志百合子 広島 2014》 / Hayashi Yuriko Hiroshima 2014 ©USAMI Masahiro, Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery</p>	<p>《宇佐美正夫 千葉 2021(ラフ図)》 / Usami Masao Chiba 2021 (rough sketch) ©USAMI Masahiro, Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery</p>

⑩	
作家名	横湯 久美 (よこゆ くみ)
作家プロフィール	1966 年生まれ。東京藝術大学、The Slade School of Fine Art 修了。原爆の凶丸木美術館にて個展開催。サンフランシスコ近代美術館所蔵等。第二次世界大戦を弾圧のもとで生き残った祖母の話を、20 世紀の民話のようなものとして捉えつつ、死者の声はもう聴けないのか、生き残った者は死者や過去とどのようにつき合うのか写真とテキストで探っている。
展覧会タイトル(予定)	時間 家の中で 家の外で ／ Time Indoors Outdoors
作品のテーマ	油画や彫刻への造詣を持ちながら、写真表現に辿り着いた横湯久美による作品展。祖母という身近な人の「死」、そこから始まる深い悲しみに、個人的な方法で納得のいくまで向き合うなかで生まれた作品群が、旧神谷伝兵衛稲毛別荘 (2 階) という元々プライベートのためにつくられた空間をつかって展示される。
点数 (予定)	約 20 点
会場・開館時間	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 (2 階) 9 時 00 分～17 時 15 分 ※休館日：8 月 23 日 (月)、8 月 30 日 (月)、9 月 6 日 (月)

展示予定作品例



からっぽを着る
There Once Was
2013
Direct print
©Kumi Yokoyu



真冬のお盆 6 年目
The Sixth Winter OBON
2013
Direct print, daylight film
©Kumi Yokoyu

⑪	
作家名	金川 晋吾 (かながわ しんご)
作家プロフィール	1981年京都府生まれ。神戸大学卒業。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。三木淳賞、さがみはら写真新人奨励賞受賞。2016年青幻舎より「father」刊行。近年の主な展覧会としては、2019年「同じ別の生き物」アンスティチュ・フランセ、2018年「長い間」横浜市民ギャラリーあざみ野など。
展覧会タイトル	read
作品のテーマ	金川晋吾は、旧神谷伝兵衛稲毛別荘の過去を探る中で出会った花光志津さんという女性の写真と日記をきっかけに、歴史書には残ることはない複数の「わたし」の存在をポートレートやインタビューの記録を使って描き出す。
点数 (予定)	約 40 点 (作品と資料)
会場・開館時間	旧神谷伝兵衛稲毛別荘 (B1・1階) 9時00分～17時15分 ※休館日：8月23日(月)、8月30日(月)、9月6日(月)
展示予定作品例	
	
©Shingo Kanagawa	

⑫	
作家名	檜橋 朝子 (ならはし あさこ)
作家プロフィール	1959年東京生れ。早稲田大学第二文学部美術専攻卒業。80年代半ばより写真活動を始め、03FOTOSを立ち上げる。国内外での個展、グループ展多数。写真集に「NU・E」「フニクリフニクラ」「half awake and half asleep in the water」「Ever After」など。日本写真協会新人賞、東川賞国内作家賞、写真の会賞受賞。
展覧会タイトル(予定)	Sea Side Line
作品のテーマ	水中からの眺めという非日常的な視点から、人の暮らしのある場所を捉える檜橋朝子は、保養地として栄えた稲毛の面影を宿す、ゆかりの家・いなげで展覧会を行う。かつて、そこから海を眺めることのできたゆかりの家に、檜橋による海や水辺からの風景が持ち込まれという視線の逆転が面白い。本展のために、撮影を行った場所は稲毛、千葉みなと、検見川など。海と緑に囲まれた千葉が抱える豊かな自然と、人工浜やヨットなどのレジャーも盛んなこの街の、様々な相貌が意外な形で描き出される。
点数(予定)	約10数点
会場・開館時間	千葉市ゆかりの家・いなげ 9時00分～16時30分 ※休館日：8月23日(月)、8月30日(月)、9月6日(月)
展示予定作品例	
	
<p>Chibaminato, 2019 ©Asako Narahashi</p>	<p>Inage, 2020 ©Asako Narahashi</p>

展示名 (予定)	海の記憶を伝える 稲毛アーカイブ展
作品のテーマ	稲毛にはかつて「海気館」と呼ばれる洒落た旅館があり、森鷗外や田山花袋など著名な小説家などが訪れている。また、千葉県初の海水浴場として、多くの観光客が訪れ、貝の採取やのりの養殖も盛んで半農半漁の街としても知られていた。千葉市民ギャラリー・いなげでは、海辺の別荘地であった時代から海岸の埋立により大きく変化した現在までの稲毛の歴史を、当時の懐かしい生活風景の写真や実際に使われていた漁具などの展示等を行うことで、現代に蘇らせる。
点数 (予定)	約 180 点 (写真と資料)
会場・開館時間	千葉市民ギャラリー・いなげ (2階) 9時00分～17時15分 ※休館日：8月23日(月)、8月30日(月)、9月6日(月)

設営イメージ (予定)

稲毛アーカイブ展 展示レイアウト案 (1/1000)

序章：主な資料と展示方法

1章：主な資料と展示方法

2章：主な資料と展示方法

3章：主な資料と展示方法

4章：主な資料と展示方法

5章：主な資料と展示方法

6章：主な資料と展示方法

7章：主な資料と展示方法

8章：主な資料と展示方法

9章：主な資料と展示方法

10章：主な資料と展示方法

11章：主な資料と展示方法

12章：主な資料と展示方法

13章：主な資料と展示方法

14章：主な資料と展示方法

15章：主な資料と展示方法

16章：主な資料と展示方法

17章：主な資料と展示方法

18章：主な資料と展示方法

19章：主な資料と展示方法

20章：主な資料と展示方法

21章：主な資料と展示方法

22章：主な資料と展示方法

23章：主な資料と展示方法

24章：主な資料と展示方法

25章：主な資料と展示方法

26章：主な資料と展示方法

27章：主な資料と展示方法

28章：主な資料と展示方法

29章：主な資料と展示方法

30章：主な資料と展示方法

31章：主な資料と展示方法

32章：主な資料と展示方法

33章：主な資料と展示方法

34章：主な資料と展示方法

35章：主な資料と展示方法

36章：主な資料と展示方法

37章：主な資料と展示方法

38章：主な資料と展示方法

39章：主な資料と展示方法

40章：主な資料と展示方法

41章：主な資料と展示方法

42章：主な資料と展示方法

43章：主な資料と展示方法

44章：主な資料と展示方法

45章：主な資料と展示方法

46章：主な資料と展示方法

47章：主な資料と展示方法

48章：主な資料と展示方法

49章：主な資料と展示方法

50章：主な資料と展示方法

51章：主な資料と展示方法

52章：主な資料と展示方法

53章：主な資料と展示方法

54章：主な資料と展示方法

55章：主な資料と展示方法

56章：主な資料と展示方法

57章：主な資料と展示方法

58章：主な資料と展示方法

59章：主な資料と展示方法

60章：主な資料と展示方法

61章：主な資料と展示方法

62章：主な資料と展示方法

63章：主な資料と展示方法

64章：主な資料と展示方法

65章：主な資料と展示方法

66章：主な資料と展示方法

67章：主な資料と展示方法

68章：主な資料と展示方法

69章：主な資料と展示方法

70章：主な資料と展示方法

71章：主な資料と展示方法

72章：主な資料と展示方法

73章：主な資料と展示方法

74章：主な資料と展示方法

75章：主な資料と展示方法

76章：主な資料と展示方法

77章：主な資料と展示方法

78章：主な資料と展示方法

79章：主な資料と展示方法

80章：主な資料と展示方法

81章：主な資料と展示方法

82章：主な資料と展示方法

83章：主な資料と展示方法

84章：主な資料と展示方法

85章：主な資料と展示方法

86章：主な資料と展示方法

87章：主な資料と展示方法

88章：主な資料と展示方法

89章：主な資料と展示方法

90章：主な資料と展示方法

91章：主な資料と展示方法

92章：主な資料と展示方法

93章：主な資料と展示方法

94章：主な資料と展示方法

95章：主な資料と展示方法

96章：主な資料と展示方法

97章：主な資料と展示方法

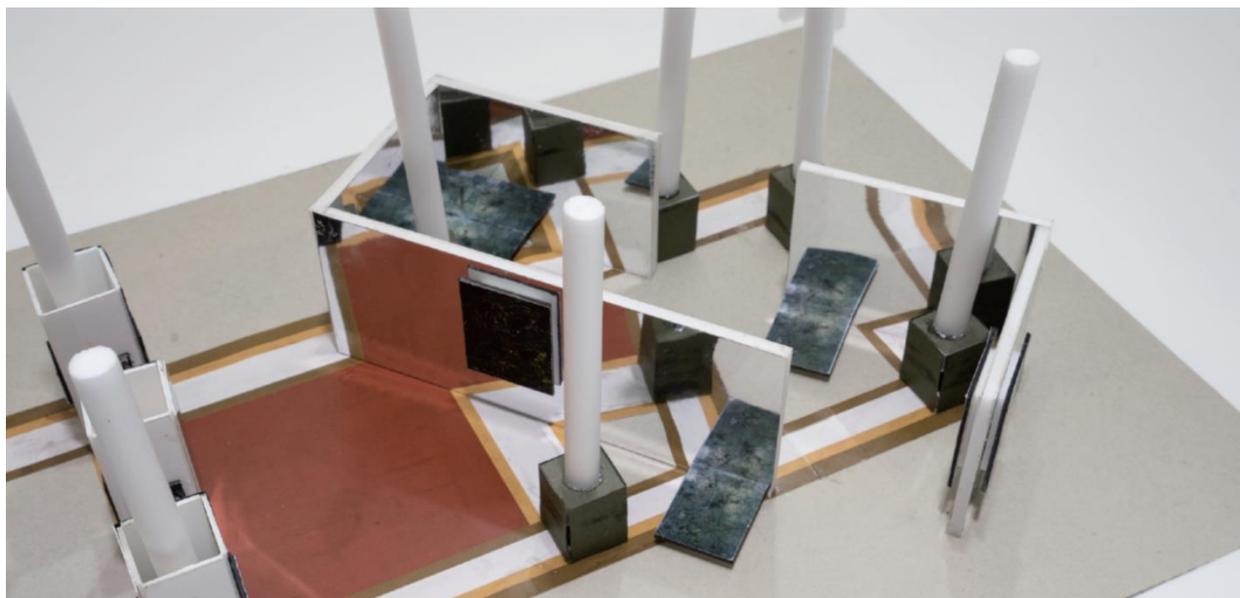
98章：主な資料と展示方法

99章：主な資料と展示方法

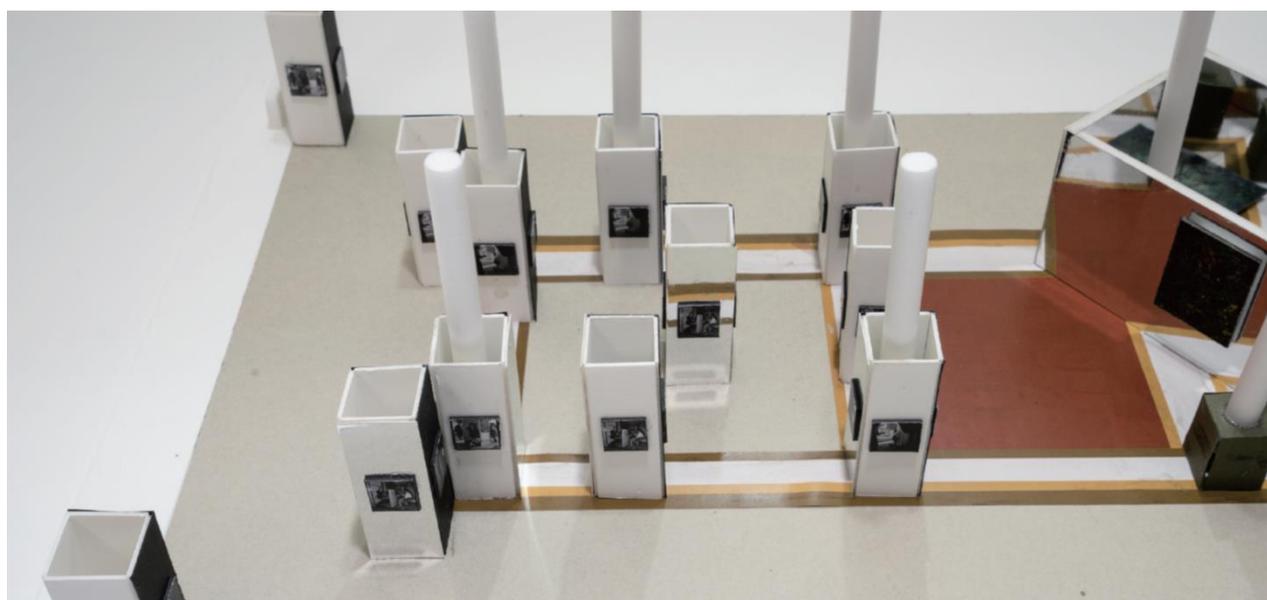
100章：主な資料と展示方法

(6) 会場設営イメージ

千葉県美術館さや堂①



千葉県美術館さや堂②



(7) 鑑賞方法及び鑑賞料

当日直接会場へ・無料

(8) 参加アーティストによるワークショップやトークイベント

観覧する人が作品をより楽しめるよう千の葉の芸術祭出展作家の作品の被写体となるワークショップや、作品制作の意図やみどころなどを語ってもらうトークイベントを開催する。

イベント名称	概要	日程	参加方法
ワークショップ 「本城直季さんの写真に写ってみよう」	千の葉の芸術祭出展作家の本城直季氏の作品に参加者が被写体として参加する。 その作品は千の葉の芸術祭写真展に展示予定。	令和3年6月27日(日)	事前申込制 (無料)
トークイベント	(仮)トークテーマ「千の葉の芸術祭とは」 「千葉県出身の作家とディレクターによるトークイベント」など。開催場所は写真展示会場など。	令和3年9月までに開催 予定	未定(無料)

(9) 市民参加企画

市民が気軽に千の葉の芸術祭に参加できる機会を提供する。

名称：#みんなのCHIBAFOTO

概要：CHIBA FOTO 会期中、千の葉の芸術祭 Instagram アカウントにて、写真を募集。

期間：令和3年8月21日(土)～9月12日(日)

(10) 新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、一部内容を変更することもある。

4. 体験・創造ワークショップ

平成 28 年度から千葉市で始まった体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を、これまで 1 回限りの受講形態だったものを、1 講座につき連続して 5 回の受講回数とし、制作した作品を芸術祭期間中に発表を行うなど、千の葉の芸術祭版として開催する。

(1) ななめな学校とは

【コンセプト】

「ななめな学校」は、講座のテーマをわかりやすく設定し、教材等を普段の生活のなかにあるものを活用することで、市民（こども・大人）が気軽に文化芸術に参加してもらうことが目的である。また、第一線で活躍するアーティストやデザイナーが講師となることで、参加者が、いつもとは違った「ななめな」ものの見方で新しい表現にチャレンジできることも目的としている。千の葉の芸術祭でもこれまでの目的を変えず、かつ、受講回数や成果発表を拡充することで、これまで以上に市民の文化芸術活動への参加の促進や多くの市民が気軽に文化に触れる機会の充実が図れる内容とする。

これらを実現するため、講座のテーマや扱う素材などを参加者の身近なものとし、講師として国内外で活躍するアーティストを招致する。

【参考】「ななめな学校」実績

H28 年度参加実績 延べ 75 人

H29 年度参加実績 延べ 286 人

H30 年度参加実績 延べ 441 人

R 元年度参加実績（千の葉の芸術祭プレイベントとして開催）延べ 404 人



「ななめな学校」公式ロゴデザイン

(2) 実施内容

連続ワークショップ（授業 1）	
講師名	子ども創造室
講師プロフィール	<p>地域密着型の企画を行う市内企業（株式会社マイキー）に所属するスタッフが講師。株式会社マイキーは、西千葉を拠点に、ものづくりのスペース等を提供する「西千葉工作室」や、子どもたちが想像力を育める場として「子ども創造室」を運営している。</p>
講座名	衣装をつくって仮装パレードをしよう！

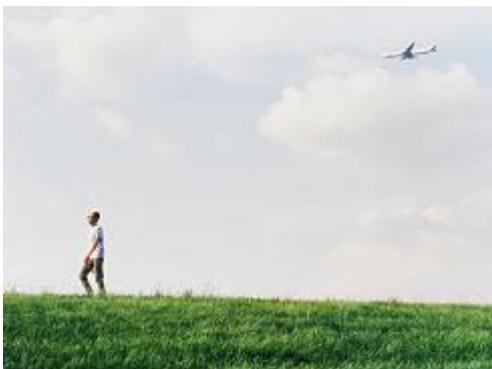


講座内容	<p>【対象】小学3～6年生 10名</p> <p>【内容】自分だけのキャラクターを考えて、それに合う衣装を作る。衣装の素材は日常で使われなくなった様々なものを使用する。</p> <p>最後に、自分が作った衣装を着て、発表を行う。</p>	 <p style="text-align: center;">講座イメージ</p>
講座開催日・場所	<p>【ワークショップ開催日】</p> <p>6月5日(土)、6月19日(土)、7月3日(土)、7月17日(土)、7月31日(土)</p> <p>いずれも13時30分～16時30分</p> <p>【開催場所】千葉市生涯学習センター</p>	
作品発表日・場所	<p>【発表日】8月8日(日)10時30分～11時30分</p> <p>【開催場所】千葉公園</p> <p>【申込方法】当日直接会場へ</p>	

連続ワークショップ(授業2)		
講師名	関 美能留(せき みのる)	
講師プロフィール	<p>劇団三条会主宰。演出家。1972年埼玉県生まれ。千葉大学園芸学部中退。1997年～2014年まで千葉市を拠点に演劇活動を行う。2004年に第3回千葉市芸術文化新人賞受賞。東京都内を中心に活躍中。</p>	
講座名	えんげき作品をつくる	
講座内容	<p>【対象】小学3～6年生 10名</p> <p>【内容】「学校の授業」をテーマに、演劇の練習を行う。演者としてだけでなく、照明や音響の仕事も理解して、様々な役割をこなしながら、最後は公演を行う。</p>	 <p style="text-align: center;">講座イメージ</p>

講座開催日・場所	【ワークショップ開催日】 6月5日(土)、6月19日(土)、7月3日(土)、7月17日(土)、7月31日(土) いずれも13時30分～16時30分 【開催場所】 千葉市生涯学習センター
作品発表日・場所	【発表日】 8月8日(日)13時00分～ 【発表場所】 千葉市生涯学習センター 大ホール 公演後に講師が講評等を行う。 【講師による公演】 8月8日(日)16時から千葉市生涯学習センター大ホールで、劇団三条会の演劇公演を開催 【申込方法】 事前予約制

連続ワークショップ(授業3)	
講師名	吉開 菜央(よしがい なお)
講師プロフィール	<p>1987年生まれ。作品は国内外の映画祭での上映をはじめ、展覧会でもインスタレーション展示されている。ミュージックビデオの監督・振付も行う。</p> <p>作品名『Grand Bouquet』(カンヌ国際映画祭監督週間2019正式招待)、『ほったまらびより』(第19回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門新人賞受賞)</p>  <p>撮影 黒田菜月</p>
講座名	五感を使って映画をつくろう!
講座内容	<p>【対象】 大人(中学生以上) 10名</p> <p>【内容】 脚本や小説など、言葉を用いた物語を起点にするのではなく、視覚・聴覚・嗅覚など身体感覚をもとにした映画製作を行う。</p>  <p>講座イメージ © Nao YOSHIGAI</p>
講座開催日・場所	【ワークショップ開催日】 6月5日(土)、6月19日(土)、6月26日(土)、7月17日(土)、7月31日(土) いずれも13時30分～16時30分 【開催場所】 千葉市生涯学習センター など
作品発表日・場所	【発表日】 8月21日(土)14時00分～ 【発表場所】 千葉市生涯学習センター 小ホール 上映後に講師が講評等を行う 【申込方法】 事前予約制

連続ワークショップ（授業 4）	
講師名	金川 晋吾（かながわ しんご） ※千の葉の芸術祭「写真芸術展」参加作家 （出展作品展示会場：旧神谷伝兵衛稲毛別荘 B1・1 階）
講師プロフィール	<p>1981 年京都府生まれ。写真家。神戸大学卒業後、東京藝術大学大学院博士後期課程修了。2010 年に第 12 回三木淳賞受賞。2016 年に写真集『father』刊行。写真家としての活動の傍ら、ワークショップ「日記を読む会」を主催している。</p> 
講座名	夏への扉 日記をつける、写真をとる
講座内容	<p>【対象】大人（中学生以上） 10 名 【内容】日記と写真はどちらも誰でも気軽にあつかえるものであり、私的な出来事や感情の記録となるもの。日記と写真を使って、あとあと振り返ることになるかもしれない 2021 年夏の記憶を記録する。</p>  <p style="text-align: right;">講座イメージ</p>
講座開催日・場所	<p>【ワークショップ開催日】 6月5日（土）、6月19日（土）、7月3日（土）、7月17日（土）、7月31日（土） いずれも 13 時 30 分～16 時 30 分 【開催場所】 千葉市生涯学習センター</p>
作品発表日・場所	<p>【発表日】8月28日（土）～9月12日（日） 9時00分～17時15分 ※休館日：8月30日（月）、9月6日（月） 【発表場所】 千葉市民ギャラリーいなげ ※講師による作品講評等は日時調整中。 【申込方法】 当日直接会場へ</p>

（3）料金

講座参加料（講座 5 回分と成果発表会参加及び材料費含む）：3,000 円

成果発表会鑑賞料（劇団三条会の公演含む）：無料

（4）新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

講座内容や発表方法等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、一部内容を変更することもある。

5. 伝統文化と新しい文化の発信

幕張メッセにほど近い県立幕張海浜公園内の日本庭園「見浜園」にて、市民の方のみならず来葉される方々を対象に、伝統文化の発信として「千葉市文化連盟」による伝統文化の体験・体験会を開催する。また、新しい文化の発信として、「一般社団法人 METACITY 推進協議会」と連携して、光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションを展開する。

【会場】日本庭園「見浜園」（幕張海浜公園）

幕張海浜公園内にある日本庭園。池泉回遊式庭園で、山や川、海、林などが表現され、四季折々の自然美が満喫できる。



園内風景



茶室「松籟亭（しょうらいてい）」

A. 伝統文化の発信

千葉市の文化芸術の担い手である千葉市文化連盟が伝統文化の体験・鑑賞会を開催する。

(1) イベント内容

イベント団体	千葉市文化連盟
団体プロフィール	<p>千葉市で活動している各種の文化・芸術団体が統合し、昭和46年に発足。代表的な活動として、「美術」「音楽」「演劇」「伝統芸能」「茶道華道」「文芸」の6分野からなる千葉市民芸術祭を毎年度開催しており、令和3年度で第50回を迎える。</p> <p>現在、千葉市文化連盟に加盟している10団体（千葉市美術協会・千葉市邦楽邦舞文化協会・特定非営利活動法人千葉市音楽協会・千葉市郷土芸能保存協会・千葉市演劇連盟・千葉市茶道華道協会・千葉市俳句協会・千葉市川柳協会・千葉市吟剣詩舞道連盟・千葉市短歌協会）のうち、千葉市邦楽邦舞文化協会と千葉市茶道華道協会とが千葉の芸術祭に参加。</p>
事業内容	<p>①邦楽演奏会（千葉市邦楽邦舞文化協会） 開催日：令和3年8月6日（金）～8月7日（土） 11時00分～11時40分／13時30分～14時10分 会場：見浜園内「立礼室」</p> <p>②華道体験会（千葉市茶道華道協会） 開催日：令和3年8月6日（金）～8月7日（土） 12時00分～13時00分／14時30分～15時30分 会場：見浜園内「パークセンター」</p> <p>①・②共通 申込方法・参加費：事前申込制・無料</p>



(2) 新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、一部内容を変更することもある。

B. 新しい文化の発信

幕張新都心を中心に活躍する一般社団法人 METACITY 推進協議会と連携して、夜の日本庭園を舞台に、現代アートやメディアアート分野で注目を集める新進気鋭の若手アーティスト 14 組の作品を「茶の湯」のプロセスになぞらえて展示する。

(1) 一般社団法人 METACITY 推進協議会とは

METACITY

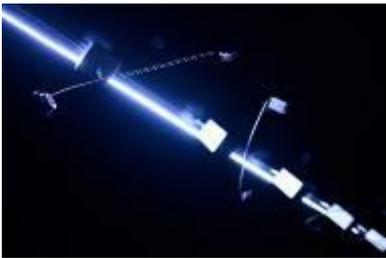
芸術文化を豊かな未来を創造するために必要な社会インフラとして捉え、従来の都市設計とは異なる考え方で、芸術文化を育み続ける「ありうる都市」を思考実験とプロトタイピングを通して探求するリサーチチーム。2018 年から活動を開始し、2020 年 6 月に一般社団法人化。現在、茶の湯のアート集団「The TEA-ROOM」、雑誌「WIRED」、エンジニア集団「DREAM ON」、4D ファブリケーションラボ「田中浩也研究室」、都市研究の研究室「MIT Media Lab City Science Group」とそれぞれ協働プロジェクトを実施し、40 名ほどのアーティストや研究者やエンジニアが活動している。これらの活動を通して、幕張新都心を中心とした千葉市の価値向上に貢献する。

(2) イベント内容

エキシビション名	生態系へのジャックイン展 (The Exhibition of Jack into the Noösphere)
企画概要	夜の日本庭園を舞台に、現代アートやメディアアート分野で注目を集める新進気鋭の若手アーティスト 14 組の作品を「茶の湯」のプロセスになぞらえて展示する。
企画コンセプト	伝説的 SF 小説『ニューロマンサー』は千葉の空を見上げるシーンから始まりました。サイバースペースへとジャックインする主人公たちの姿はどことなく、都市計画とインターネットという二重のグリッドに囚われた今のわたしたちに似ています。そこは無限に広がっているようでどこか寂しい、人間だけの世界です。わたしたちはいかにして多様な生物／無生物がひしめく世界へと帰還できるのでしょうか？ かつて、地球規模で互いの思考が接続されることで人間は形而上学的な知識の生態系”Noösphere (ノウアスフィア 精神圏)”の中に住まうようになる、と言われました。生物ごとの多様な世界の捉え方が明らかになりつつある今、わたしたちは人間だけに留まらないあらたな Noösphere を描きだせるのではないのでしょうか？ 本展は日本庭園という、自然を人為的に再構成することで本来以上の意味を創造する拡張環境を舞台に、自然と技術とアートの結節点となる作品たちを茶の湯のプロセスになぞらえて配置します。そこは理想化された電腦空間でも素朴な自然世界でもない、様々な認知世界が響き合う場であり、同時に茶の湯が追い求めてきた幽玄の思想を継ぐものとなるはずです。 互いの認知世界を交換し、交感し、交歓しあう、あらたなる生態系へようこそ。
会場	日本庭園「見浜園」(千葉県千葉市美浜区ひび野 2-116)
開催期間	令和 3 年 7 月 24 日 (土) ~ 8 月 8 日 (日) ※休館日：8 月 2 日 (月)

時間	18時00分～21時00分（最終入場20時30分）
鑑賞方法・入場料	事前予約制・無料

(3) 出展アーティスト

<p>石川 将也</p>  <p>協力：中路景暁</p>	<p>1980年生まれ。慶應義塾大学佐藤雅彦研究室を経て、2006年より2019年までクリエイティブグループ「ユーフラテス」に所属。科学映像「NIMS 未来の科学者たちへ」シリーズなど教育映像の制作に携わる。2020年独立。デザインスタジオ cog 設立。研究を通じた新しい視覚表現手法の開発と、それを用いて情報を伝えるデザイン活動を行っている。最新作「Layers of Light / 光のレイヤー」が令和2年度メディア芸術クリエイター育成支援事業に採択された。2019年より武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 非常勤講師。</p> <p>https://www.cog.ooo/lol/</p>
<p>ALTERNATIVE MACHINE</p> 	<p>人工生命(ALife)の研究者を中心としたメンバーによって2017年に設立。多数の企業との人工生命的なアプローチによる共同研究をはじめ、「自律性」や「オープンエンドな進化」を人工的に構成するための研究開発、人工生命の理論/技術を用いた作品制作や社会実装を行っている。</p> <p>https://alternativemachine.co.jp/</p>
<p>後藤 映則</p> 	<p>1984年岐阜県生まれ。アーティスト、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科准教授。古くから存在する手法やメディアと現代のテクノロジーを掛け合わせ、目に見えない事象や関係性を捉える造形制作やインスタレーションを制作。主な展覧会に、「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.09 時どきどき想像」高松市美術館(2020/香川)、「オープン・スペース 2019 別の見方で」ICC(2019/東京)、「Ars Electronica Festival 2019」POST CITY(2019/リンツ)など。</p> <p>https://www.akinorigoto.com/</p>
<p>The TEA-ROOM</p> 	<p>日本の総合芸術ともいわれる「茶の湯」のありうる形を探求するアート集団。2015年に結成し、翌年には銀座ソニービル内に日本庭園をテーマとした空間をプロデュース。国際的な野外音楽フェスティバルで国内外のトップアーティストに向け移動式茶室を用いたプライベート茶会を開催するなど従来の茶会とは異なる体験をデザインする。2020年に中部国際空港の国際コンコースに全長30mを超える作品を展示し、2021年には150mの建築物を使用したパブリックアート作品を展示するなど大型のアート作品の制作にも注力している。</p> <p>https://thetearoom.jp/</p>

<p>齋藤 帆奈</p> 	<p>多摩美術大学工芸学科ガラスコースを卒業後、metaPhorest (biological/biomed art platform)に参加し、バイオアート領域での活動を開始。現在は東京大学大学院学際情報学府博士課程に在籍（寛康明研究室）。理化学ガラスの制作技法によるガラス造形や、生物、有機物、画像解析等を用いて作品を制作しつつ、研究も行っている。近年では複数種の野生の粘菌を採取、培養し、研究と制作に用いている。主なテーマは、自然/社会、人間/非人間の区分を再考すること、表現者と表現対象の不可分性。</p> <p>https://www.hannasaito.com/</p>
<p>関野 らん</p>  <p>制作協力：(株) メモリアル開発</p>	<p>東京大学工学部社会基盤学科、同大学院修士課程にて、建築家 内藤廣に師事し土木と建築を学ぶ。2011年SRAN DESIGN 設立。大学院在籍時より従来の墓地の研究とともに新しい埋葬形式を探求した墓地の設計に携わり、現在まで多様な墓地の設計を行う。主な作品「風の丘樹木葬墓地」（東京都八王子市）、「樹木葬墓地 桜の里」（東京都町田市）など。人間の生と死について常に向き合い、分野を超えてランドスケープから建築、インテリアまで幅広くデザインし、100年後までつながる人の生きる場所を模索している。</p> <p>https://www.sran.jp</p>
<p>滝戸 ドリタ</p>  <p>Photo by Ryohei Tomita</p>	<p>異なる機能や感覚を組み合わせることによって、いままでの感覚がずれるような新たな体験を創出。また作品の発想は突飛であっても、テクノロジーと洗練されたデザインを並走させながら、多くの人が考え思いを馳せる、思考の入口を作る。主な受賞に、「PRIX ARS ELECTRONICA & STARTS Prize 2017」DIGITAL MUSICS & SOUND ART 部門 Honorary Mentions (2017)、「第18回文化庁メディア芸術祭」エンターテインメント部門新人賞(2014)。2016年度、2019年度メディア芸術クリエイター育成支援事業2度に渡り採択。</p> <p>https://dorita.jp/</p>
<p>田中浩也研究室+METACITY</p>  <p>Photo by：北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs</p>	<p>デザインエンジニアリングの視点から3D/4Dプリンティングに取り組んでいる慶応義塾大学SFC田中浩也研究室と、思考実験とプロトタイプングを通して「ありうる都市」の形を探求するリサーチチームMETACITYによる協働プロジェクト。大型の3Dプリンターに複数の自然素材を採用し、それにデジタル技術で新たな形態と構造を与え、「人新世」の時代の社会彫刻を模索する。</p> <p>https://metacity.jp/projects/bio-sculpture/</p>

<p>多層都市「幕張市」</p> 	<p>多層都市「幕張市」は、実在しない行政区「幕張市」を舞台に、新たな都市を作り出すリサーチプロジェクト。WEB3.0 技術を応用した次世代の集団合意形成システムの開発、自律分散社会における新たな統治や物理性をともなわない環境における実在性と祝祭性のあり方をまず探求している。研究者やアーティスト、エンジニア、SF 作家、官僚など多様な個人が草の根的に活動に参画。2021 年からは都市研究をおこなう MIT メディアラボ City Science Group などの研究室も参画している。</p> <p>https://makuhari.city/</p>
<p>田中 堅大</p> 	<p>1993 年、東京都生まれ。都市音楽家 (Urban Composer)。都市の現象を観察し、音楽／サウンドアート制作に応用することで、都市を主題に音を紡ぐ「都市作曲 (Urban Composition)」の確立を模索している。European Postgraduate in Arts in Sound にて、ベルギー・オランダ・フランスを巡りサウンドアートを研究したのち、都市の記憶を回想する個展「Urban Reminiscence——Sound, Object, and Rhythm」Sta. (2020/東京) を開催。</p> <p>https://kentatanaka.cargo.site/</p>
<p>Dead Channel JP</p>  <p>Map by Lincun as CC BY-SA 3.0</p>	<p>千葉市在住または千葉市に縁のある SF 作家の団体。メンバーは石川宗生、小川哲、高橋文樹、名倉編の 4 名。作家同士の相互扶助コミュニティを千葉市に創出し、コミュニティメンバーから世界に通用する SF 作家を輩出することを目的に設立。団体名はウィリアム・ギブソンの名作『ニューロマンサー』のチバシティについて有名な書き出し「港の空の色は、空きチャンネルに合わせた TV の色だった」(黒丸尚訳) より。</p> <p>https://dead-channel.jp/</p>
<p>ノガミ カツキ</p> 	<p>新潟県長岡市生まれ。2013 年にベルリン芸術大学 Olafur Eliasson の Raumexperimente に交換留学。2015 年には武蔵野美術大学映像学科クリストフ・シャルルゼミ卒業。生きづらいインターネットとの付き合い方、現実とのギャップで歪んだアイデンティティと向き合う為に制作活動が続ける。主な展覧会に、Data : Salon XXXII Eastern Bloc ギャラリー (2018/モントリオール)、「Foreign Bodys」ゲーティンステイトウート (2017/上海)、など。</p> <p>https://katsukinogami.co/</p>

<p>松田 将英</p> 	<p>デジタル社会における匿名性や集合知を主題としたパフォーマンス、インスタレーション作品で知られる。ソーシャルメディアをベースに様々な名義での活動後、2019年より実名で活動する。近年の主な展覧会に、「Mob World Reverb」 TALION GALLERY (2021/東京)、「ENCOUNTERS」 ANB Tokyo (2020/東京)、「超現代美術展」会場非公開 (2020/東京)、「White Magazine」 EUKARYOTE (2019/東京)、「AMBIENT REVOLTS」 ZK/U (2018/ベルリン) など。2016年「Prix Ars Electronica」準グランプリ受賞。</p> <p>https://masahidematsuda.com/</p>
<p>Ray Kunimoto</p> 	<p>1991年 NY 出身、東京育ち。2017年より NY 在住。慶應義塾大学文学部美学美術史専攻卒業。独自の立体音響システムやテクノロジーを駆使し、体験者の振る舞いと空間を密接に関係させるインスタレーション作品を制作する。「静寂」をテーマに日本の伝統的美意識と現代のテクノロジーを結びつけ、サウンド制作や、エンジニアリング、彫刻、空間設計など様々な領域を横断し、新しい音響体験を提示する。日本、アラブ首長国連邦、台湾、アメリカをはじめとし世界各地でサウンドインスタレーション作品を発表、ライブパフォーマンスを行なっている。</p> <p>https://www.raykunimoto.com/</p>

(4) 展示レイアウト：庭園

(施工状況により若干位置の変更の可能性あり)

■ 展示候補場所：外周

- A The TEA-ROOM ①
- B BioSculpture
- C 夏藤帆葉
- D The TEA-ROOM ②
- E 滝戸ドリタ
- F 後藤映則
- G Dead Channel
- H ノガミカツキ
- I 石川 将也
- J 照野ラン
- K ALTERNATIVE MACHINE
- Q 専横市
- ? 松田 将英

1 正面交差点



2 茶室前 歩道



3 階段上



4 川のほとり



5 船着場



6 船着場 横



7 木橋



8 あずまや



9 州浜



10 池・あづまや



11



12 亀島付近の芝生



13 出口付近





(5) 展示レイアウト：茶室

(施工状況により若干位置の変更の可能性あり)

■展示候補場所：茶室 松籟亭（しょうらいてい）

- L The TEA-ROOM③
- M The TEA-ROOM④
- N O Ray Kunimoto
- P 田中 堅大

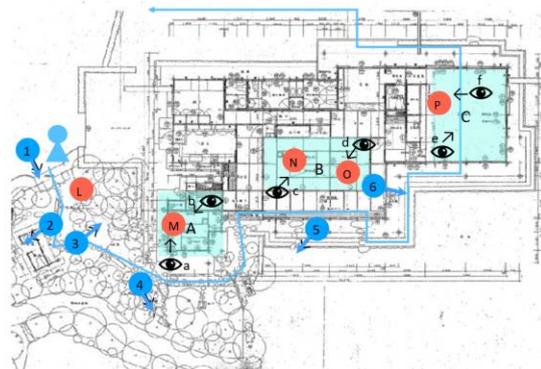
A 茶室(小)：お客様は開口（外）から中の作品を鑑賞



B 茶室(大)：お客様は廊下から中の作品を鑑賞



C 立礼



(6) 新型コロナウイルス感染症の対策について

国等や関係団体が作成する方針やガイドライン等に従って、事業を実施する。

事業内容等については、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、一部内容を変更することもある。

6. 市民参加について

千の葉の芸術祭で、鑑賞以外に市民が参加体験できる事業は下記のとおり。

分野	内容	参加人数	時期
写真芸術展	ワークショップ：「本城直季さんの写真に写ってみよう」	8組（1組2名）	令和3年6月27日（日）
写真芸術展	#みんなのCHIBA FOTO	制限無し	令和3年8月21日（土）～ 9月12日（日）
体験・創造 ワークショップ	ななめな学校 連続ワークショップ	10名×4講座	令和3年6月～7月： 講座開催（4講座×5回） 令和3年8月～9月： 成果発表
伝統文化の発信	華道体験会 邦楽演奏会	5名×4回 5名×4回	令和3年8月6日（金） ～8月7日（土） 各日2回開催

7. 他の企画や関連イベントについて

会期中に開催される千葉市美術館や千葉市文化振興財団の主催するイベントについて、芸術祭と広報等で連携を図りながら、市内の文化芸術の魅力を広く発信する。

（1）千葉市美術館 展覧会

問い合わせ先：千葉市美術館（043-221-2311 / <https://www.ccma-net.jp/>）

イベント名	平木コレクションによる前川千帆展	
主催	千葉市美術館	
日程	7月13日（火）～9月20日（月・祝） ※休館日：8月2日（月）、9月6日（月） ※休室日：8月16日（月）	
会場	8、7階展示室	
事業内容	近代日本を代表する版画家前川千帆。ユーモラスな造形による独自の創作版画と、漫画家としての面にも焦点を当てる44年ぶりの大回顧展	
観覧料	一般1,200円（960円）、大学生700円（560円） ※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。 ※「前川千帆展」と「江戸絵画と笑おう」の共通チケット ※（ ）内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金 ※リピーター割引：本展チケット（有料）半券の提示で、会期中2回目以降の観覧料が半額 ※ナイトミュージアム割引：金・土曜日の18時以降は観覧料半額	



イベント名	江戸絵画と笑おう（「平木コレクションによる前川千帆展」同時開催）		
主催	千葉県美術館		
日程	7月13日（火）～9月20日（月・祝） ※休館日：8月2日（月）、9月6日（月） ※休室日：8月16日（月）		
事業内容	千葉県美術館のコレクションから戯画や禅画を中心に紹介。多彩な江戸絵画や明治の版画と触れ合い、和やかに親しむひと時をお楽しみください。		
観覧料	一般 1,200 円（960 円）、大学生 700 円（560 円） ※小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者 1 名は無料 ※「前川千帆展」と「江戸絵画と笑おう」の共通チケット ※「江戸絵画と笑おう」のみご観覧の方は、一般 500 円（400 円）、大学生 400 円（320 円） ※（ ）内は前売券、市内在住 65 歳以上の方の料金 ※リピーター割引：前川千帆展との共通チケット（有料）半券の提示で、2 回目以降の観覧料半額 ※ナイトミュージアム割引：金・土曜日の 18 時以降は前川千帆展との共通チケット半額		

イベント名	つくりかけラボ 04 飯川雄大 デコレータークラブ—0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて		
主催	千葉県美術館		
日程	7月14日（水）～10月3日（日） ※休館日：8月2日（月）、9月6日（月）		
会場	4階子どもアトリエ		
事業内容	公開制作やワークショップを通して空間を作り上げていく、参加・体験型のアーティストプロジェクト		
観覧料	無料		

イベント名	千葉県美術館コレクション選	
主催	千葉県美術館	
日程	6月8日（月）～7月4日（日） 7月7日（水）～8月1日（日） 8月3日（火）～9月5日（日）	
会場	5階常設展示室	
事業内容	約 10,000 点におよぶ千葉県美術館のコレクションから、浮世絵や江戸絵画、近代版画、現代美術それぞれのハイライトを紹介	
観覧料	一般 300 円、大学生 220 円	

(2) 公益財団法人千葉市文化振興財団

イベント名	ペイサイドジャズ 2021 千葉 (コンペティション)	
主催	公益財団法人千葉市文化振興財団	
日程	1次審査は、音源による審査。2次審査は、8月28日(土)にコンペティション。「一般部門」と「学生部門」の2部門を募集。	
会場	千葉市民会館 小ホール	
事業内容	音楽文化の振興・普及を図るとともに、街の活性化や千葉市の文化度・知名度を高めることを目的の「ペイサイドジャズ 2021 千葉」では、ジャズバンドを対象とした「ジャズコンペティション」を開催。	
参加方法	一般部門：1次審査無料、 2次審査1グループ10,000円 学生部門：1次審査・2次審査ともに無料 ① 音源提出・自由曲2曲(ジャズスタンダードもしくはジャズアレンジした曲。計20分以内)の音源提出。 ② エントリー用紙の記入	
問い合わせ先	043-221-2411	
URL	https://www.f-cp.jp/ ※デモンストレーション、本番公演の詳細は上記HP参照	



「ジャズコンペティション 2020」
開催の様子

イベント名	伝統芸能体験 (仮)	
主催	(公財) 千葉市文化振興財団	
日程	令和3年9月11日(土) 11時開演	
会場	千葉市文化センター アートホール	
事業内容	邦楽邦舞の公演、生け花の展示。	
参加方法	入場自由 (無料)	
問い合わせ先	千葉市文化センター 043-224-8211	
URL	https://www.f-cp.jp/	



開催イメージ

8. 広報広告について (株式会社 ADK クリエイティブ・ワン受託業務)

(1) 広報の基本方針

- ① 市内外からの来場者の集客やイベントの認知度を高めるための効果的な広報
- ② 市民の生活に根差した媒体を活用し、千葉市への愛着と芸術祭へのモチベーションアップに繋がる広報
- ③ 費用対効果の高い展開による広報
- ④ 新型コロナウイルス感染症対策に考慮した広報

(2) 実施体制

広報業務を株式会社 ADK クリエイティブ・ワンに業務委託し、効果的かつ効率的な広報推進を図る。

(3) 実施概要

① 広報戦略の策定

- ・効果的で効率的な広報展開を行う
- ・アートディレクターおおうちおさむ氏が制作する芸術祭のロゴ、キービジュアルを基盤として活用する。

② WEB サイト制作

スピーディで更新可能な情報発信ツールとして、ウェブサイトを作成する。

- ・簡易 WEB サイトを早期に制作、運営管理
- ・本格 WEB サイトを作成、運営管理

③ SNS 活用

広報ターゲットである生活者が日常的に利用する最新メディアとして SNS を有効活用する。

- ・公式 SNS アカウントの開設、情報発信、運用 (Instagram、Twitter、Facebook、note など)

④ 印刷告知物制作

市民やターゲットへの芸術祭の認知獲得、会場の目印として印刷告知物を制作する。

- ・ポスター (芸術祭全体、各プログラム)
- ・チラシ (芸術祭全体、各プログラム)

⑤ 大型掲示物

千葉市民及びアクセス圏内のターゲットへの開催の周知、街の芸術祭の機運醸成、展示会場の認知率向上のため、大型掲示物を制作・設置する。

- ・バス停サイン
- ・駅ポスター掲出
- ・電車内ポスター掲出
- ・駅改札外ビジョン掲出
- ・のぼり制作

⑥ 写真芸術展ガイドマップ

来場者に配布する千葉市の文化的魅力と街の理解につながるツールを作成する。

- ・芸術祭のコンセプト、概要・参加作家紹介、スケジュール・会場アクセス

⑦ パブリシティ

新聞、テレビ、美術関連メディアに、芸術祭の情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。

(4) 広報スケジュール

令和 3 年 3 月 29 日：簡易 WEB サイト公開

令和 3 年 4 月～ ：簡易ポスター掲出、簡易チラシ配布

令和 3 年 6 月上旬 ：note アカウント開設

令和 3 年 6 月 24 日：本格 WEB サイト公開、プレスリリース配信、
SNS アカウント開設 (Instagram、Facebook)

令和 3 年 6 月順次 ：チラシ配布、ポスター掲出 (各イベントにより配布・掲出日異なる)

令和 3 年 7 月～ ：大型掲示物掲出

9. 千葉都市モノレール、京成バス 千の葉の芸術祭フルラッピング広告

千の葉の芸術祭事務局にて、それぞれ、ラッピング施工業者の選定は終了。

ラッピングデザインはディレクターおおうち氏のデザイン。

- ・千葉都市モノレール運行期間：令和3年3月26日（金）～令和3年9月30日（木）
- ・京成連節バス運行期間：令和3年5月1日（土）～令和3年9月12日（日）



10. 各種認証マークについて

beyond2020 プロジェクト（認証組織：文化庁等）、「日本博」参画プロジェクト（認証組織：独立行政法人日本芸術文化振興会）の認証を取得済。

【beyond2020 プロジェクト】

2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として、文化庁等が推進している。

【日本博参画プロジェクト】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等も見据えつつ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興を図り、その多様かつ普遍的な魅力を発信するため、日本全国を舞台に「日本博」が展開される。

11. 輸送交通について

公式WEBサイトや写真芸術展ガイドマップなどで適切な情報発信を図る。